

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 11-009284

(43)Date of publication of application : 19.01.1999

(51)Int.Cl.

C12N 15/09
A61K 38/46
A61K 39/02
A61K 39/40
C07K 16/40
C12N 1/21
C12N 9/52
//(C12N 15/09
C12R 1:01)
(C12N 1/21
C12R 1:19)
(C12N 9/52
C12R 1:19)

(21)Application number : 09-185849

(71)Applicant : SUNSTAR INC

(22)Date of filing : 25.06.1997

(72)Inventor : OKUDA KATSUJI

KATO TETSUO

ISHIHARA KAZUYUKI

SAITO TORU

(54) PROTEASE GENE DERIVED FROM BACTEROIDES FORSYTHUS

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain the subject new gene, extracted from a chromosome DNA of Bacteroides forsythus and composed of a DNA capable of coding polypeptide having protease activity and haemolytic activity, useful for, e.g. vaccine against Bacteroides forsythus and diagnostic agent for periodontal disease.

SOLUTION: This gene is a new DNA shown by the formula, obtained from a chromosome DNA of Bacteroides forsythus, and capable of coding polypeptide having protease activity and haemolytic activity, useful for, e.g. vaccine against Bacteroides forsythus and diagnostic agent for periodontal disease. It is obtained by (A) extracting the chromosome DNA from Bacteroides forsythus ATCC 43037 strain by the normal method, (B) treating the extracted DNA with a restrictive enzyme, (C) integrating the treated DNA in a manifestation vector and then putting it into E. coli, (D) culturing the E. coli in an agar medium containing skimmed milk, (E) selecting the strain with transparent spots around the colony, and (F) recovering the DNA from the strain.

```
ATC GCT GCA AAG GCA GCT GTA TGC CAT GAG GCA TGT TTC GCG GTA      45
Met Ala Pro Met Gly Ala Val Trp Asp Asp Arg Ser Leu Ala Leu
1          5          10          15
TCA TCT AAG ATG GGT TTT GCG AAT GAG AAG TTC AGA TAT GTT TTT      90
Ser Ser Lys Met Ala Phe Ala Asn Glu Lys Leu Arg Tyr Leu Phe
20          25          30
          .
          .
          .
ATC GAG ATC AAA GTC GGC GAT TTT GTA AAA GCG TAC CAA TTT AGA      1260
Ile Glu Ile Lys Val Gly Asp Phe Val Lys Arg Tyr Glu Leu Arg
410          415          420
GTA CAT TTT TAA
Val Asp Leu      1275
```

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-9284

(43) 公開日 平成11年(1999) 1月19日

(51) Int.Cl. ⁸	識別記号	F I
C 1 2 N 15/09	Z N A	C 1 2 N 15/00
A 6 1 K 38/46		A 6 1 K 39/02
		39/40
	A C K	C 0 7 K 16/40
C 0 7 K 16/40		C 1 2 N 1/21
審査請求 未請求 請求項の数24 F I (全 13 頁) 最終頁に続く		

(21) 出願番号 特願平9-185849

(22) 出願日 平成9年(1997) 6月25日

特許法第30条第1項適用申請有り 平成9年6月26日～
6月27日 開催の「第77回 日本細菌学会関東支部総
会」において文書をもって発表

(71) 出願人 000106324

サンスター株式会社

大阪府高槻市朝日町3番1号

(72) 発明者 奥田 克爾

千葉県千葉市美浜区磯辺2-2-6

(72) 発明者 加藤 哲男

千葉県船橋市飯山満町2-361-49

(72) 発明者 石原 和幸

千葉県市原市ちはら台4-10-2 ザウス
ヒルズ中央9-301

(72) 発明者 斎藤 徹

大阪府大阪市城東区古市3-9-1-709

(74) 代理人 弁理士 細田 芳徳

(54) 【発明の名称】 バクテロイデス・フォーサイサス由来のプロテアーゼ遺伝子

(57) 【要約】

【課題】バクテロイデス・フォーサイサス由来の、プロテアーゼ活性及び溶血活性を有するポリペプチド、該ポリペプチドをコードするDNA、該ポリペプチドの製造方法、バクテロイデス・フォーサイサスに対するワクチン、及び歯周病の診断薬を提供すること。

【解決手段】バクテロイデス・フォーサイサス (Bacteroides forsythus) の染色体DNAから得られ得るDNAであって、プロテアーゼ活性及び溶血活性を有するポリペプチドをコードするDNA、該DNAにコードされるポリペプチド、該ポリペプチドの製造方法、該ポリペプチド又はその一部に特異的に結合する抗体、該ポリペプチド又はその一部を含有してなるワクチン、該ポリペプチド又はその一部を含有してなる、バクテロイデス・フォーサイサスによる疾患の診断薬。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 バクテロイデス・フォーサイサス (*Bacteroides forsythus*) の染色体DNAから得られ得るDNAであって、プロテアーゼ活性及び溶血活性を有するポリペプチドをコードするDNA。

【請求項2】 バクテロイデス・フォーサイサスがバクテロイデス・フォーサイサスATCC43037株である請求項1記載のDNA。

【請求項3】 配列表の配列番号：1に示される塩基配列からなるDNA。

【請求項4】 配列表の配列番号：1に示される塩基配列の一部を有するDNAであって、プロテアーゼ活性及び溶血活性を有するポリペプチドをコードするDNA。

【請求項5】 配列表の配列番号：1に示される塩基配列からなるDNAとストリンジェントな条件下でハイブリダイズするDNAであって、プロテアーゼ活性及び溶血活性を有するポリペプチドをコードするDNA。

【請求項6】 配列表の配列番号：1に示される塩基配列において、1若しくは数個の塩基が欠失、付加、挿入又は置換されたDNAであって、プロテアーゼ活性及び溶血活性を有するポリペプチドをコードするDNA。

【請求項7】 配列表の配列番号：2に示されるアミノ酸配列からなるポリペプチドをコードするDNA。

【請求項8】 配列表の配列番号：2に示されるアミノ酸配列の一部を有するポリペプチドをコードするDNAであって、プロテアーゼ活性及び溶血活性を有するポリペプチドをコードするDNA。

【請求項9】 配列表の配列番号：2に示されるアミノ酸配列において、1若しくは数個のアミノ酸残基が欠失、付加、挿入又は置換されたアミノ酸配列からなるポリペプチドをコードするDNAであって、プロテアーゼ活性及び溶血活性を有するポリペプチドをコードするDNA。

【請求項10】 請求項1～9いずれか記載のDNAにコードされるポリペプチド。

【請求項11】 配列表の配列番号：2に示されるアミノ酸配列からなるポリペプチド。

【請求項12】 配列表の配列番号：2に示されるアミノ酸配列において、1若しくは数個のアミノ酸残基が欠失、付加、挿入又は置換されたポリペプチドであって、プロテアーゼ活性及び溶血活性を有するポリペプチド。

【請求項13】 配列表の配列番号：2に示されるアミノ酸配列の一部を有するポリペプチドであって、プロテアーゼ活性及び溶血活性を有するポリペプチド。

【請求項14】 請求項1～9いずれか記載のDNAが挿入されてなる発現ベクター。

【請求項15】 請求項14記載の発現ベクターが導入されてなる細胞。

【請求項16】 請求項15記載の細胞を培養し、得られるプロテアーゼ活性及び溶血活性を有するポリペプチ

ドを回収することを特徴とする、プロテアーゼ活性及び溶血活性を有するポリペプチドの製造方法。

【請求項17】 請求項10～13いずれか記載のポリペプチド又はその一部に特異的に結合する抗体。

【請求項18】 ポリペプチドの一部が、連続した5個以上のアミノ酸残基からなるペプチド断片である請求項17記載の抗体。

【請求項19】 個体に投与してバクテロイデス・フォーサイサスに対する感染防御免疫を誘導する活性を有する、請求項10～13いずれか記載のポリペプチド又はその一部を含有してなるワクチン。

【請求項20】 ポリペプチドの一部が、連続した5個以上のアミノ酸残基からなるペプチド断片である請求項19記載のワクチン。

【請求項21】 請求項10～13いずれか記載のポリペプチド又はその一部を含有してなる、バクテロイデス・フォーサイサスによる疾患の診断薬。

【請求項22】 ポリペプチドの一部が、連続した5個以上のアミノ酸残基からなるペプチド断片である請求項21記載の診断薬。

【請求項23】 請求項1～9いずれか記載のDNA又はその一部を含有してなる、バクテロイデス・フォーサイサスによる疾患の診断薬。

【請求項24】 請求項17又は18記載の抗体を含有してなる、バクテロイデス・フォーサイサスによる疾患の診断薬。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、歯周疾患の原因菌の一つであるバクテロイデス・フォーサイサス (*Bacteroides forsythus*) 由来の新規プロテアーゼ遺伝子、該遺伝子によりコードされる新規プロテアーゼに関する。さらに本発明は、かかるプロテアーゼを含有してなるワクチン等に関する。

【0002】

【従来の技術】歯周病は口腔における二大疾患のうちのひとつで、数種の細菌による複合感染症である。その中でバクテロイデス・フォーサイサスは進行性の歯周炎の局所から高頻度に分離されることから、成人性歯周炎や再発性歯周炎の主要な原因菌の一つと考えられている。また本菌は、菌体外プロテアーゼを産生するため、これらが病原因子として注目されている。したがって、かかるプロテアーゼについての分子生物学的なアプローチは、歯周病の発生メカニズム等の解明に寄与するところが大きいものの、かかるプロテアーゼについて、分子生物学的には全く解明されていない。

【0003】一方、歯周病の予防手段として、バクテロイデス・フォーサイサスと同じく歯周病に関与する細菌であるポルフィロモナス・ジンジバリス (*Porphyromonas gingivalis*) とアクチノバチルス・アクチノマイセテ

ムコミタンス (*Actinobacillus actinomycetemcomitans*) の全菌体や菌体抽出物、或いは線毛を抗原とするワクチンが提案されている(特開昭59-128338号公報、特開昭61-140527号公報、特開平8-176014号公報)。また、バクテロイデス・フォーサイサスの線毛やきょう膜を抗原とするワクチンについても提案がなされている(特開平5-132428号公報)。

【0004】しかしながら、これらは、夾雑物によりワクチンの特性の低下が起ることや、安全性の点で問題があった。そこで、ポルフィロモナス・ジンジバリスとアクチノバチルス・アクチノマイセテムコミタンスについては、その線毛を構成するタンパク質のアミノ酸配列由来のペプチドを抗原とするワクチンが提案されている(特開平8-48695号公報、特開平9-52846号公報)。しかしながら、バクテロイデス・フォーサイサスについては夾雑物の影響がなく、しかも高い効果の期待できるワクチンは知られていない。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】したがって本発明の目的は、バクテロイデス・フォーサイサス由来の、プロテアーゼ活性及び溶血活性を有するポリペプチドをコードするDNA、バクテロイデス・フォーサイサス由来の、プロテアーゼ活性及び溶血活性を有するポリペプチド、該ポリペプチドの製造方法、バクテロイデス・フォーサイサスに対するワクチン、及び歯周病の診断薬を提供することにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】即ち、本発明の要旨は、

〔1〕 バクテロイデス・フォーサイサス (*Bacteroides forsythus*) の染色体DNAから得られ得るDNAであって、プロテアーゼ活性及び溶血活性を有するポリペプチドをコードするDNA、

〔2〕 バクテロイデス・フォーサイサスがバクテロイデス・フォーサイサスATCC43037株である前記〔1〕記載のDNA、

〔3〕 配列表の配列番号：1に示される塩基配列からなるDNA、

〔4〕 配列表の配列番号：1に示される塩基配列の一部を有するDNAであって、プロテアーゼ活性及び溶血活性を有するポリペプチドをコードするDNA、

【0007】〔5〕 配列表の配列番号：1に示される塩基配列からなるDNAとストリンジェントな条件下でハイブリダイズするDNAであって、プロテアーゼ活性及び溶血活性を有するポリペプチドをコードするDNA、

〔6〕 配列表の配列番号：1に示される塩基配列において、1若しくは数個の塩基が欠失、付加、挿入又は置換されたDNAであって、プロテアーゼ活性及び溶血活性を有するポリペプチドをコードするDNA、

〔7〕 配列表の配列番号：2に示されるアミノ酸配列からなるポリペプチドをコードするDNA、

〔8〕 配列表の配列番号：2に示されるアミノ酸配列の一部を有するポリペプチドをコードするDNAであって、プロテアーゼ活性及び溶血活性を有するポリペプチドをコードするDNA、

【0008】〔9〕 配列表の配列番号：2に示されるアミノ酸配列において、1若しくは数個のアミノ酸残基が欠失、付加、挿入又は置換されたアミノ酸配列からなるポリペプチドをコードするDNAであって、プロテアーゼ活性及び溶血活性を有するポリペプチドをコードするDNA、

〔10〕 前記〔1〕～〔9〕いずれか記載のDNAにコードされるポリペプチド、

〔11〕 配列表の配列番号：2に示されるアミノ酸配列からなるポリペプチド、

〔12〕 配列表の配列番号：2に示されるアミノ酸配列において、1若しくは数個のアミノ酸残基が欠失、付加、挿入又は置換されたポリペプチドであって、プロテアーゼ活性及び溶血活性を有するポリペプチド、

【0009】〔13〕 配列表の配列番号：2に示されるアミノ酸配列の一部を有するポリペプチドであって、プロテアーゼ活性及び溶血活性を有するポリペプチド、

〔14〕 前記〔1〕～〔9〕いずれか記載のDNAが挿入されてなる発現ベクター、

〔15〕 前記〔14〕記載の発現ベクターが導入されてなる細胞、

〔16〕 前記〔15〕記載の細胞を培養し、得られるプロテアーゼ活性及び溶血活性を有するポリペプチドを回収することを特徴とする、プロテアーゼ活性及び溶血活性を有するポリペプチドの製造方法、

〔17〕 前記〔10〕～〔13〕いずれか記載のポリペプチド又はその一部に特異的に結合する抗体、

【0010】〔18〕 ポリペプチドの一部が、連続した5個以上のアミノ酸残基からなるペプチド断片である前記〔17〕記載の抗体、

〔19〕 個体に投与してバクテロイデス・フォーサイサスに対する感染防御免疫を誘導する活性を有する、前記〔10〕～〔13〕いずれか記載のポリペプチド又はその一部を含有してなるワクチン、

〔20〕 ポリペプチドの一部が、連続した5個以上のアミノ酸残基からなるペプチド断片である前記〔19〕記載のワクチン、

〔21〕 前記〔10〕～〔13〕いずれか記載のポリペプチド又はその一部を含有してなる、バクテロイデス・フォーサイサスによる疾患の診断薬、

【0011】〔22〕 ポリペプチドの一部が、連続した5個以上のアミノ酸残基からなるペプチド断片である前記〔21〕記載の診断薬、

〔23〕 前記〔1〕～〔9〕いずれか記載のDNA又

はその一部を含有してなる、バクテロイデス・フォーサイサスによる疾患の診断薬、

〔24〕 前記〔17〕又は〔18〕記載の抗体を含有してなる、バクテロイデス・フォーサイサスによる疾患の診断薬、に関するものである。

【0012】

【発明の実施の形態】

(A) 本発明のDNAについて

本発明のDNAは、バクテロイデス・フォーサイサス由来の菌体外プロテアーゼをコードするDNAであれば、特に限定されない。本明細書において、バクテロイデス・フォーサイサスとしては、バクテロイデス・フォーサイサスATCC43037株やFDC291株、FDC293株等が好ましいものとして挙げられる。本発明のDNAとしては、具体的には、以下のDNAが例示できる。

【0013】1) バクテロイデス・フォーサイサスの染色体DNAから得られ得るDNAであって、プロテアーゼ活性及び溶血活性を有するポリペプチドをコードするDNA。

2) 配列表の配列番号：1に示される塩基配列からなるDNA。

3) 配列表の配列番号：2に示されるアミノ酸配列からなるポリペプチドをコードするDNA。

【0014】2) のDNAに関して、配列表の配列番号：1に示される塩基配列の一部を有するDNAであってプロテアーゼ活性及び溶血活性を有するポリペプチドをコードするDNA、配列表の配列番号：1に示される塩基配列からなるDNAとストリンジェントな条件下でハイブリダイズするDNAであってプロテアーゼ活性及び溶血活性を有するポリペプチドをコードするDNA、及び配列表の配列番号：1に示される塩基配列において、1若しくは数個の塩基が欠失、付加、挿入又は置換されたDNAであって、プロテアーゼ活性及び溶血活性を有するポリペプチドをコードするDNAも本発明のDNAに含まれる。

【0015】ここで、配列表の配列番号：1に示される塩基配列からなるDNAは、バクテロイデス・フォーサイサスの染色体DNAから得られるDNAであって、プロテアーゼ活性及び溶血活性を有するポリペプチドのオープンリーディングフレームである。また、本明細書において、塩基配列の「一部」とは、例えば5～1271個の塩基をいう。

【0016】また、「ストリンジェントな条件下でハイブリダイズする」とは、ハイブリダイゼーションバッファーとして、5×SSC、5×デンハルト、0.1% SDS、250μg/mLサケ精子DNA含有50mMリン酸バッファー(pH6.5)を用い、ハイブリダイズ温度が50℃、6×SSC(室温)で1時間及び2×SSC、0.1%SDS(50℃)で5分間の洗浄を行

う、という条件でハイブリダイズすることを言う。また、塩基の欠失、付加、挿入又は置換数について、「数個」とは、例えば1～5個をいう。

【0017】また、3) のDNAに関して、配列表の配列番号：2に示されるアミノ酸配列の一部を有するポリペプチドをコードするDNAであって、プロテアーゼ活性及び溶血活性を有するポリペプチドをコードするDNA、及び配列表の配列番号：2に示されるアミノ酸配列において、1若しくは数個のアミノ酸残基が欠失、付加、挿入又は置換されたアミノ酸配列からなるポリペプチドをコードするDNAであって、プロテアーゼ活性及び溶血活性を有するポリペプチドをコードするDNAも本発明のDNAに含まれる。

【0018】ここで、配列表の配列番号：2に示されるアミノ酸配列は、配列番号：1に示される塩基配列によってコードされるアミノ酸配列であり、バクテロイデス・フォーサイサス由来の新規の菌体外プロテアーゼのアミノ酸配列の一例である。

【0019】本発明のDNAにコードされるポリペプチドは、プロテアーゼ活性及び溶血活性を有するものである。ポリペプチドについてのかかる活性についての説明は、本発明のポリペプチドの箇所にて説明する。

【0020】本発明のDNAは、バクテロイデス・フォーサイサスから公知の方法でゲノムライブラリーを作製し、該ライブラリーをスクリーニングすることによりクローニングすることができる。クローニングは、例えばMolecular Cloning 2nd Ed. (Cold Spring Harbor Laboratory Press (1989))等の基本書に基づいて、当業者が容易に行うことができる。また、クローニングされたDNAの塩基配列の決定は、市販のシーケンスキット等を用いる公知の方法により行うことができる。アミノ酸配列や塩基配列に、欠失、付加、挿入又は置換といった変異を導入することは、例えば部位特異的突然変異誘発法等により、当業者であれば容易に行うことができる。

【0021】このような本発明のDNA(プロテアーゼ遺伝子)は、歯周病の病原因子として注目されているプロテアーゼをコードするものであり、歯周病に係わる診断、治療、研究のために有用である。

【0022】(B) 本発明のポリペプチドについて
本発明のポリペプチドは、バクテロイデス・フォーサイサスから得られる菌体外プロテアーゼであって、プロテアーゼ活性及び溶血活性を有するポリペプチドであれば、特に限定されない。ここで、バクテロイデス・フォーサイサスとしては、バクテロイデス・フォーサイサスATCC43037株やFDC291株、FDC293株等が好ましいものとして挙げられる。本発明のポリペプチドとしては、具体的には、以下のポリペプチドが例示できる。

【0023】1) バクテロイデス・フォーサイサスの染色体DNAから得られ得るDNAにコードされるポリペ

プチドであって、プロテアーゼ活性及び溶血活性を有するポリペプチド。

2) 配列表の配列番号: 2に示されるアミノ酸配列からなるポリペプチド。

3) 配列表の配列番号: 1に示される塩基配列からなるDNAにコードされるポリペプチド。

【0024】2)のポリペプチドに関して、配列表の配列番号: 2に示されるアミノ酸配列において、1若しくは数個のアミノ酸残基が欠失、付加、挿入又は置換されたポリペプチドであって、プロテアーゼ活性及び溶血活性を有するポリペプチド、及び配列表の配列番号: 2に示されるアミノ酸配列の一部を有するポリペプチドであって、プロテアーゼ活性及び溶血活性を有するポリペプチドも本発明のポリペプチドに含まれる。

【0025】本明細書において、アミノ酸残基の欠失、付加、挿入又は置換について、「数個」とは、例えば1〜5個をいう。また、本明細書において、アミノ酸配列の「一部」とは、例えば5以上の残基をいう。また、配列番号: 2に示されるアミノ酸配列から、本発明のポリペプチドの分子量は約48kDaと計算から求められる。

【0026】3)のポリペプチドに関して、配列表の配列番号: 1に示される塩基配列の一部を有するDNAにコードされるポリペプチドであって、プロテアーゼ活性及び溶血活性を有するポリペプチド、配列表の配列番号: 1に示される塩基配列からなるDNAとストリンジェントな条件下でハイブリダイズするDNAにコードされるポリペプチドであって、プロテアーゼ活性及び溶血活性を有するポリペプチド、及び配列表の配列番号: 1に示される塩基配列において、1若しくは数個の塩基が欠失、付加、挿入又は置換されたDNAにコードされるポリペプチドであって、プロテアーゼ活性及び溶血活性を有するポリペプチドも、本発明のポリペプチドに含まれる。

【0027】本発明のポリペプチドは、プロテアーゼ活性及び溶血活性を有するものである。本明細書において、「溶血活性」とは、赤血球膜に作用してこれを崩壊させ、ヘモグロビンを遊離させる活性をいい、かかる活性は、具体的にはKimizukaらの方法(Microbiology and Immunology (96) 40: 717-723)に従って測定することができる。

【0028】即ち、測定対象のポリペプチド又はポリペプチド含有物をリン酸バッファー(0.8重量%塩化ナ

トリウム、0.02重量%塩化カルシウム、0.115重量%リン酸一水素ナトリウム(無水)、及び0.02重量%リン酸二水素カリウム(無水)(pH7.5))中に溶かし、試料溶液を調製する。次いで、予め同リン酸バッファーで遠心洗浄したヒトの血液と、該試料溶液を等容量混合し、37℃で1時間静置する。静置後、混合液の上清について、541nmの吸光度を測定する。試料溶液の代わりにサポニン液(サポニン(ナカライテスク社製サポニン)の同リン酸バッファー溶液、サポニンの濃度0.1重量%)および同リン酸バッファーでそれぞれ同様の操作を行い、それぞれの541nmの吸光度を測定する。サポニン液を用いた時の吸光度からリン酸バッファーを用いた時の吸光度を引き、その値に0.5を掛けた値を1溶血活性単位(HU)とする。ポリペプチド又はポリペプチド含有物1mgあたり1HU以上の活性を有するものを、「溶血活性を有するポリペプチド又はポリペプチド含有物」とする。

【0029】また、「プロテアーゼ活性」とは、ペプチド結合を加水分解する活性をいい、本明細書においては、以下の方法で測定することができる。即ち、測定対象のポリペプチド又はポリペプチドの含有物を、50mMトリスバッファー(pH8.0)に溶解させ、試料溶液を調製する。次いで、該試料溶液、N-ベンゾイル-L-Val-Gly-Arg-p-ニトロアニリド等の合成基質、及び同トリスバッファーを混合し、37℃で1時間インキュベートする。そして、インキュベート後の混合物について、405nmの吸光度を測定する。試料溶液の代わりに同トリスバッファーを用いたものを対照とする。対照の吸光度よりも高い値が出たものを、「プロテアーゼ活性が有る」とする。なお、溶血活性及びプロテアーゼ活性の測定に関して、測定対象のポリペプチドの含有物としては、例えば本発明のポリペプチドをコードするDNAが含有されてなる形質転換体の抽出物(例えば、菌表層抽出物等)が挙げられる。

【0030】本発明のポリペプチドは、以下の性質を有するプロテアーゼである。

基質特異性

種々の合成基質を用いての、公知のプロテアーゼ活性測定法により、本発明のポリペプチドは表1に示す基質特異性を有するものであることが分かる。

【0031】

【表1】

合成ペプチド	活性 (%) ± SD	
	実施例	対照
N-Benzoyl Val-Gly-Arg- pNa	100	0.4 ± 0.2
BAPNA	1.5 ± 0.7	1.3 ± 0.1
L-Phe-Ala pNa	2.7 ± 0.2	3.0 ± 0.6
Gly-Phe-pNa	2.9 ± 0.4	2.6 ± 0.04
Gly-Pro-pNa	0.3 ± 0.5	0.1 ± 0.1
Ala-Ala-Phe-pNa	1.6 ± 0.3	1.4 ± 0.3
N-Suc Gly-Gly-Phe-pNa	2.0 ± 0.1	1.1 ± 0.5
N-Suc Ala-Ala-Ala-pNa	2.1 ± 0.4	1.3 ± 0.6
N-Suc-Ala-Ala-Pro-Phe-pNa	1.4 ± 0.5	0.9 ± 0.5
N-Suc-Ala-Ala-Pro-Leu-pNa	1.4 ± 0.1	1.2 ± 0.1
N-Benzoyl-L-Tyro-pNa	1.0 ± 0.03	1.3 ± 0.3
Glu-L-Phe-Ala-pNa	0.5 ± 0.04	0.6 ± 0.2
N-Benzoyl-Pro-Phe-Arg-pNa	1.1 ± 0.2	0.3 ± 0.1
N-p-Tosyl-Gly-Pro-Arg-pNa	1.2 ± 0.3	1.4 ± 0.6

【0032】各種プロテアーゼインヒビターにより与えられる影響

本発明のポリペプチドは、TLCK、ロイペプチン、N-エチルマレイミド、ヨード酢酸、ヨードアセトアミド、及びEDTAでそのプロテアーゼ活性が阻害される。このことから、該ポリペプチドはシステインプロテアーゼであることが分かる。

【0033】本発明のポリペプチドは、本発明のDNAが挿入された発現ベクターが導入された細胞を培養し、得られるプロテアーゼ活性及び溶血活性を有するポリペプチドを回収することにより得ることができる。また、生産されたポリペプチドは、通常のカラムクロマトグラフィー又は後述の本発明の抗体を用いたアフィニティー精製等の公知のタンパク質の精製方法により容易に精製して回収することができる。

【0034】本発明の発現ベクターの構築に用いられるベクターは、例えば、pET、pCDM8、pBluescript SKII+等の公知のベクターが挙げられるが、本発明のDNAが挿入でき発現可能なベクターであれば特に限定されない。また、本発明のDNAをベクターに挿入する方法は特に限定されるものではなく、T4DNAリガーゼを用いる方法等の公知の方法を用いることができる。形質転換体である、本発明の細胞は、前記発現ベクターを所望の宿主細胞に導入することにより得られる。宿主細胞としては、原核生物細胞または真核生物細胞のいずれでもよく、用いる発現ベクターに応じて選ばれる。発現ベクターを導入する方法としては、例えば、リン酸カルシウム法、CaCl₂法、DEAE デキストラン法、エレクトロポレーション法等の公知の方法を用いればよい。

【0035】このような本発明のポリペプチドは、歯周病に係わる診断、治療、研究のために有用である。

【0036】(C) 本発明の抗体について

本発明の抗体は、本発明のポリペプチド又はその一部に特異的に結合する抗体であればポリクローナル抗体又はモノクローナル抗体のいずれでも構わない。かかる抗体は、例えば特開平7-97395号公報に記載された方法に従って、本発明のポリペプチドの全部又は一部を用いてウサギやマウス等を免疫することにより、容易に生産することができる。かかる抗体の用途としては、アフィニティークロマトグラフィー、cDNAライブラリーのスクリーニング、医薬・診断薬・実験用試薬等が挙げられる。

【0037】抗体の産生のためのポリペプチドは、本発明のDNAが導入された形質転換体の培養物から精製することができる。また、ポリペプチドの一部であるペプチドは、本発明のポリペプチドのアミノ酸配列に基づいて、公知のペプチド合成法により得ることができる。

【0038】ポリペプチドの一部からなるペプチド断片としては、該断片に対する抗体が該ポリペプチド又はその一部に特異的に結合するものであれば特に限定されない。ポリペプチドの一部としては、例えば本発明のポリペプチドにおける連続した5個以上のアミノ酸残基からなるペプチド断片が挙げられる。そのようなペプチド断片としては、例えば配列番号：2で示されるアミノ酸配列のN末端の1位～377位の範囲におけるアミノ酸配列を有するペプチド断片が好ましく、1位～190位の範囲におけるアミノ酸配列を有するペプチド断片がより好ましい。かかるペプチド断片としては、例えば、配列表の配列番号：3～配列番号：5に示されるアミノ酸配列を有するペプチド断片が挙げられる。

【0039】また、本発明においては、抗体の産生やワクチン・診断薬に用いるポリペプチドの一部としてのペプチド断片として、下記に述べるペプチド断片の誘導体、ペプチド断片の塩、又は該誘導体の塩を用いること

ができる。即ち、本発明において、下記のペプチド断片、ペプチド断片の誘導体、ペプチド断片の塩、又は該誘導体の塩の誘導体はポリペプチドの一部に包含される。

【0040】本明細書においてペプチド断片の誘導体とは、ペプチド断片に、保護基、官能基、スペーサー又は担体等を結合させたものをいう。例えば、ペプチド断片のN末端がアセチル基またはウレタン基等で保護されたものや、C末端がアミド基またはエステル基等で保護されたものが、保護基を有する誘導体の例である。また、ペプチド断片にチロシンやシステインを導入したのも誘導体に包含される。更に、抗体がペプチド断片に結合する場合に、立体障害をうけにくくする目的でスペーサーを導入しても良いが、このようなスペーサーが導入されたものも誘導体に包含される。

【0041】担体が結合した誘導体としては、ポリリジン、各種ポリマー、ウシ血清アルブミン、テタヌストキソイド、オボアルブミン、キーホールリンベットヘモシアニン、サイログロブリン、 γ -グロブリン、多糖等が結合したものが包含される。

【0042】ペプチド断片の塩またはペプチド断片誘導体の塩としては、ペプチド断片自体またはその誘導体がアミノ基を有する場合には、それと造塩作用のある塩酸、硫酸、リン酸、ピロリン酸等の無機酸との塩、さらには酢酸、乳酸、パルミチン酸、ステアリン酸、プロピオン酸、クエン酸、酒石酸、リンゴ酸、アスコルビン酸、シュウ酸、メタンスルホン酸、ベンゼンスルホン酸、p-トルエンスルホン酸等の有機酸との塩等の酸付加塩が挙げられる。

【0043】一方、ペプチド断片自体またはその誘導体がカルボキシル基、スルホン基をもつ場合には、それらのナトリウム塩、カリウム塩等のアルカリ金属塩、カルシウム塩、マグネシウム塩等のアルカリ土類金属塩、アンモニウム塩、トリエチルアミン塩等の塩が挙げられる。

【0044】ペプチド断片の誘導体は、ペプチド化学の技術分野で通常用いられる化学的修飾手段によって得ることができる。例えば、ペプチド断片へ担体を化学結合させる場合には、グルタルアルデヒド、水溶性カルボジイミド、スクシンイミド等を用いる方法が利用できる。

【0045】(D) 本発明のワクチンについて
本発明のワクチンは、上記に記載の本発明のポリペプチド又はその一部を有効成分として含有してなるものであって、個体に投与してバクテロイデス・フォーサイサスに対する感染防御免疫を誘導する活性を有するものである。本発明のワクチンに用いられるポリペプチドの一部からなるペプチド断片としては、本発明の抗体の説明の箇所で記載したペプチド断片と同じものが好ましいものとして挙げられる。

【0046】本発明のワクチンには、別の構成成分とし

て、例えば、水、塩溶液、グルコースまたはグリセリンを配合しても良い。更にワクチンには、吸収促進剤として、胆汁酸またはその誘導体もしくはそれらの塩、界面活性剤、コレラトキシンBサブユニットなどを配合しても良い。

【0047】さらに、その他の成分として、ミョウバン、水酸化アルミニウム、リン酸アルミニウム、硫酸アルミニウム、ムラミルジペプチドなどのアジュバント；オレイン酸、ステアリン酸、パルミチン酸などのアジュバント脂溶成分；ソルビン酸、クロロブタノール、安息香酸、パラオキシ安息香酸エステル、ホウ酸、デヒドロ酢酸、チモール等の防腐剤；ポリアクリル酸ナトリウム、ポリビニルアルコール、ポリビニルピロリドン、カルボキシメチルセルロースナトリウム、メチルセルロース、ヒドロキシエチルセルロース、カラギーナン、アルギン酸ナトリウム、アラビアゴム、キサンタンガム、モンモリロナイト、カオリン、水和シリカ、ケイ酸アルミニウムマグネシウム、ヘクトライトなどの粘結剤を配合することができる。ワクチンの投与方法としては、皮下注射、筋肉注射、口腔内注射、静脈注射、経鼻投与、経口投与、経口腔粘膜投与等の方法が挙げられる。

【0048】さらに、いわゆる受動免疫として、本発明のポリペプチド又はその一部をウシや鶏に免疫して得られる、血清、牛乳、卵に含まれる特異抗体を含有する口腔用組成物を歯周病予防や治療に用いることができる。代表的な初回投与量は、タンパク質量として0.1～1.0mg/kg体重であるが、必要とする予防又は治療の程度に応じて、投与量を増加したり、投与回数を増大させればよい。

【0049】(E) 本発明の疾患の診断薬について
本発明のポリペプチド若しくはその一部、本発明のDNA若しくはその一部、又は本発明の抗体を含有したものは、歯周病等の疾患の診断薬として利用することができる。例えば、本発明のポリペプチド又はその一部を含有してなる診断薬を用いる場合、本発明のポリペプチド又はその一部をポリスチレンプレート、ガラスフィルター、磁性粒子、ラテックス等に固定化し、標識二次抗体で被験者の特異抗体を検出するELISA法、RIA法、蛍光抗体法、化学発光抗体法等を利用して歯周病を診断できる。本発明の診断薬に用いられるポリペプチドの一部からなるペプチド断片としては、本発明の抗体の説明の箇所で記載したペプチド断片と同じものが好ましいものとして挙げられる。

【0050】また、本発明のDNA又はその一部を含有してなる診断薬を用いる場合、プローブとしての該DNA又はその一部、及び被験者由来のだ液、歯垢、歯肉溝液等から得られるDNAを用いるサザンブロット法等を利用して歯周病を診断できる。

【0051】

【実施例】以下、実施例により本発明をさらに詳しく説

明するが、本発明はこれらの実施例等によりなんら限定されるものではない。

【0052】実施例1（プロテアーゼ遺伝子のクローニング）

バクテロイデス・フォーサイサスのプロテアーゼ遺伝子のクローニングは、Ishiharaらの方法（Infection and Immunity (95) 63: 1147-1152）に従って行った。即ち、バクテロイデス・フォーサイサスATCC43037株から、染色体DNAをフェノールで抽出後、エタノールで沈殿させた。得られた染色体DNAを制限酵素S_{au}3A Iで部分消化し、10～40%のショ糖密度勾配遠心分離（154000×g、18時間）により、2～10kbpのDNAフラグメントを得た。それらのフラグメントをプラスミドベクター pBluescript SKII+に組み込み、この発現ベクターをCaCl₂法により大腸菌 HB101に導入した。形質転換された大腸菌 HB101を1重量%スキムミルクおよび60μg/mLアンピシリンを含むLB寒天培地で生育させ、コロニーの周囲に透明斑を作ったものをポジティブクローンとした。

【0053】ポジティブクローンから得られるプラスミドを鋳型として、またSKプライマーをプライマーとして、ダイプライマーシーケンスキット（Applied Biosystem 社製）を用いて、ジデオキシヌクレオチドチェーンターミネーション法によって、自動DNAシーケンサー（Applied Biosystem 社製、model 373A）で塩基配列を決定した。

【0054】このようにして得られた、バクテロイデス・フォーサイサスの菌体外プロテアーゼのオープンリーディングフレームの塩基配列を、配列表の配列番号：1に示す。また、配列番号：1に示される塩基配列にコードされるポリペプチドのアミノ酸配列を配列番号：2に示す。

【0055】実施例2（組換えプロテアーゼの生産）

実施例1で得たポジティブクローンを、60μg/mLアンピシリンを含むLBブロスで培養した。得られた菌体を超音波破碎後、遠心分離して上清を得た。この上清から、硫酸アンモニウムによる沈殿法でタンパク質を濃縮した。得られたタンパク質から、ロトフォア・セル（Bio-Rad Laboratories社製）を用いて、isoelectric focusingによって活性フラクションを得、プロテアーゼを部分精製した。活性フラクションから、Superdex 200 HR（Pharmacia 社製）ゲルろ過カラムを用いて組換えプロテアーゼを精製した。

【0056】次に、形質転換された大腸菌由来の、本発明のポリペプチドのプロテアーゼ活性及び基質特異性について調べた。形質転換された大腸菌 HB101の菌表層抽出物50μL、表1に示す合成基質50μL、50mMトリスバッファー（pH8.0）150μLを37℃で1時間インキュベートし、混合物の405nmの吸光度を測定した。結果を表1に示す。表1において、

各合成基質に対する活性値は、N-ベンゾイル-L-Val-Gly-Arg-p-ニトロアニリドの吸光度を100（%）として示した。

【0057】また、形質転換を行っていない大腸菌 HB101の菌表層抽出物についても、同様に実験を行った。このデータは対照とした。その結果、クローニングしたプロテアーゼは、N-ベンゾイル-L-Val-Gly-Arg-p-ニトロアニリドに特異的なプロテアーゼであることが分かった。

【0058】また、形質転換した大腸菌 HB101の菌表層抽出物に含有されるポリペプチドについて、各種プロテアーゼインヒビターが与える影響を調べた。その結果、該ポリペプチドは、TLCK、ロイペプチン、N-エチルマレイミド、ヨード酢酸、ヨードアセトアミド、及びEDTAでそのプロテアーゼ活性が阻害された。このことから、該ポリペプチドはシステインプロテアーゼであることが分かった。

【0059】形質転換された大腸菌 HB101を超音波破碎して菌表層抽出物を得た。このようにして得られた菌表層抽出物400μLと、リン酸バッファー（0.8重量%塩化ナトリウム、0.02重量%塩化カルシウム、0.115重量%リン酸一水素ナトリウム（無水）、及び0.02重量%リン酸二水素カリウム（無水）（pH7.5））で遠心洗浄したヒトおよびウマの血液400μLを37℃で1時間インキュベートし、混合物の上清の541nmの吸光度を測定した。菌表層抽出物の代わりに、サポニン液（サポニン（ナカライテスク社製サポニン）の同リン酸バッファー溶液、サポニンの濃度0.1重量%）、及び同リン酸バッファーでそれぞれ同様の操作を行い、サポニン液を用いた時の吸光度からリン酸バッファーを用いた時の吸光度を引き、その値に0.5を掛けた値を1溶血活性単位（HU）とした。

【0060】その結果、形質転換された大腸菌 HB101の菌表層抽出物は、ヒトおよびウマに対し、それぞれ14.2HU/mg、10.8HU/mgの溶血活性を示した。また、対照として用いた、形質転換していない大腸菌 HB101の菌表層抽出物はいずれの血液に対しても活性を示さず、0HU/mgであったことから、形質転換された大腸菌 HB101の菌表層抽出物には導入されたDNA由来のタンパク質である、本発明のポリペプチドが含有されていることが分かる。また、かかる溶血活性により歯周炎に関与していることが考えられる。

【0061】実施例3（抗体の生産）

特開平8-48695号公報に記載の方法に従い、CHIRON MIMOTOPES PTY LTD（オーストラリア）製のMULTI-PIN PEPTIDE SYNTHESIS KITを用いて、実施例1で得られた本発明のDNAの塩基配列から導かれるポリペプチドのアミノ酸配列を基に、5～15個のアミノ酸残基から

なる3種類のペプチドをN末端側から合成した。合成されたペプチドは、それぞれペプチド-1（アミノ酸配列は配列番号：3で示される。）、ペプチド-2（アミノ酸配列は配列番号：4で示される。）、ペプチド-3（アミノ酸配列は配列番号：5で示される。）とし、それぞれ配列番号：2で示されるアミノ酸配列の第44～48位（ペプチド-1）、第168～177位（ペプチド-2）、第363～377位（ペプチド-3）に該当する。

【0062】上記のペプチドをバイツカイチス（Vaitukaitis）ら（J. Clin. Endoch. 33:988（1971））の方法に従い、フロインド完全アジュバントで乳化し、5週令のBALB/cマウス5匹に、マウス体重1kgあたり100 μ gの量のペプチドを2週ごとに3回皮下注射した。最終免疫の1週間後に血液を採取し、ELISA法で抗体産生の有無を調べた。

【0063】ELISA法による測定は以下のように行った。バクテロイデス・フォーサイサスATCC43037株を100 μ g（凍結乾燥菌体）/mLの濃度に調製し、菌体を96穴マイクロタイタープレートに固定化し、続いてブロッキングを行った。次いで、採取された血液を希釈した液をウェルに添加した。37℃で60分間放置後、ウェルを洗浄し、アルカリフォスファターゼ標識ヒツジ抗マウス免疫グロブリン抗体を添加した。37℃で60分間放置後、ウェルを洗浄し、次いでウェルに200 μ Lの二塩酸オーフェニレンジアミン（0.04重量%）と10 μ L/100mLの過酸化水素水（30%）を加え、490nmの吸光度を測定した。また、ペプチドの代わりにフロインド完全アジュバントのみを注射したマウスについても同様に処理を行い、血液を採取した。このものを対照とした。結果を表2に示す。

【0064】

【表2】

アミノ酸配列	吸光度
SPDRTW	0.530
YIIDDDLMSA	0.602
NGTTNNSKLMKITDA	0.621
対照	0.1以下

【0065】表2より、本発明のポリペプチドの一部により、バクテロイデス・フォーサイサスに特異的な抗体が生産されることが分かった。このことから、本発明のポリペプチド又はその一部をワクチンとして利用し得ることが示された。

【0066】実施例4（ワクチンとしての利用）

本発明のポリペプチド又はその一部の必要量を取り、等容量の不完全フロイントアジュバント又は完全フロイントアジュバントと十分に混合し、油中水系のワクチン製剤を得る。

【0067】実施例5（診断薬としての利用）

実施例3で合成したペプチドを、常法に従って96穴マイクロタイタープレートに固定化した。歯周病患者及び健常者の血清をリン酸緩衝液で希釈し、ペプチドを固定化したウェルに添加した。ウェルを洗浄した後、二次抗体として市販のパーオキシダーゼ標識ウサギ抗ヒトIgG抗体を希釈して加え、37℃でインキュベートした。次いでウェルを洗浄後、オーフェニレンジアミン溶液をウェルに添加して405nmの吸光度を測定した。また、血清の希釈液の代わりに等量のPBSを添加して、同様の操作を行ったものを「検体無添加」とした。結果を表3に示す。

【0068】

【表3】

アミノ酸配列	吸光度	
	歯周病患者	健常者
SPDRTW	0.628	0.264
YIIDDDLMSA	0.607	0.351
NGTTNNSKLMKITDA	0.674	0.298
検体無添加	0.1以下	0.1以下

【0069】表3より、健常者と歯周病患者との間の吸光度の差は顕著なものであることが分かった。したがって、本発明のペプチドは歯周病の診断薬として利用されることが分かった。

【0070】実施例6（本発明のDNAを用いてのサザンハイブリダイゼーション）

バクテロイデス・フォーサイサスATCC43037株、臨床分離株3株、及びボルフィロモナス・ジンジバリス（コントロールとして）を、Sau3AIで部分消化し、アガロースゲル電気泳動に付した。泳動ゲルを1.5M塩化ナトリウム/0.5N水酸化ナトリウム水溶液でアルカリ変性させた後、トリスバッファーで中和し、ナイロンフィルターに転写させた。

【0071】このナイロンフィルターに、1～10pmolのディゴキシゲニンでラベルしたプラスミドプローブをハイブリダイズさせ、42℃で一晩インキュベートした。ナイロンフィルターを洗浄後、抗ディゴキシゲニン-アルカリフォスファターゼコンジュゲート抗体を添加し、インキュベートした後発色試薬を用いて発色させた。

【0072】プラスミドプローブは次のようにして作製した。DIG DNA ラベリングシステム（ベリンガーマンハイム社製）を用いて、DIG-dUTPで、本発明のポリペプチドをコードするDNAが挿入されたプラスミドベクター pBluescript SKII+をラベルした。このものをプラスミドプローブとした。

【0073】また、ハイブリダイズは次のようにして実

施した。50%ホルムアミド、5×SSC、1%ブロッキングバッファー、0.1%サルコシン、0.01%SDSを含むハイブリダイズバッファーで、42℃、18時間インキュベートした。また、検出は、ハイブリダイズしたナイロンフィルターを洗浄後、DIG DNA ディテクションキット（ベーリンガー・マンハイム社製）を用いて実施した。

【0074】その結果、バクテロイデス・フォーサイサスATCC43037株、臨床分離株3株はそれぞれ0.6kbp、0.8kbpの位置にバンドを形成した。また、ポルフィロモナス・ジンジバリスにはバンドが見られなかった。このことから、本発明のDNAはバクテロイデス・フォーサイサスの検出、歯周病の診断に有用であることが分かった。

配列：

ATG GCT CCA ATG GGA GCT GTA TGG GAT GAC CGA TCT TTG GCG CTA	45
Met Ala Pro Met Gly Ala Val Trp Asp Asp Arg Ser Leu Ala Leu	
1 5 10 15	
TCA TCT AAG ATG GCT TTT GCC AAT GAG AAG TTG AGA TAT CTG TTT	90
Ser Ser Lys Met Ala Phe Ala Asn Glu Lys Leu Arg Tyr Leu Phe	
20 25 30	
TGG TCA ACT TGT CTC AGT TTA AGA GTC CAC GAT GGA CAT TCT CCT	135
Trp Ser Thr Cys Leu Ser Leu Arg Val His Asp Gly His Ser Pro	
35 40 45	
GAT CGT ACC TGG CGA CTT GCC AAT AAA GGA GGG TTG AGG ATG ATC	180
Asp Arg Thr Trp Arg Leu Ala Asn Lys Gly Gly Leu Arg Met Ile	
50 55 60	
TTT GGT TAT GAA ACG GTA TCT TAT GAC AGT GGC CGC TAT GGC AGT	225
Phe Gly Tyr Glu Thr Val Ser Tyr Asp Ser Gly Arg Tyr Gly Ser	
65 70 75	
GAA TTT TGG AAA CAA TGG AAA AAA GGA AAG AGT TTT TCT GAT GCT	270
Glu Phe Trp Lys Gln Trp Lys Lys Gly Lys Ser Phe Ser Asp Ala	
80 85 90	
TTT ATT GAA GCC AGT TGG TCG CTA TTC CGG AAT CAA ACG CCC GTC	315
Phe Ile Glu Ala Ser Trp Ser Leu Phe Arg Asn Gln Thr Pro Val	
95 100 105	
GTT TGT GCA TGT GGC AAT ACT AAA GAG GAG GTT CAA AAA AGG CTG	360
Val Cys Ala Cys Gly Asn Thr Lys Glu Glu Val Gln Lys Arg Leu	
110 115 120	
TTT TCG GAA AGA ATG TTC TAT TCC GGC GCG GTG AGC AGC AAC TGG	405
Phe Ser Glu Arg Met Phe Tyr Ser Gly Ala Val Ser Ser Asn Trp	
125 130 135	
TAT TGG TGG AAG TGG AGA GAG GCC CAA AAC CAT AAA GGC CTT AAG	450
Tyr Trp Trp Lys Trp Arg Glu Ala Gln Asn His Lys Gly Leu Lys	
140 145 150	
ACA GCA AGA GCG AAG GCC CCT CAA AAT ATG GAT GTG TTG CTC TTG	495
Thr Ala Arg Ala Lys Ala Pro Gln Asn Met Asp Val Leu Leu Leu	
155 160 165	
AAA CCG TAC ATA ATT GAC GAT GAT TTG ATG TCA GCA ATT GCA AAT	540
Lys Pro Tyr Ile Ile Asp Asp Asp Leu Met Ser Ala Ile Ala Asn	

【0075】

【発明の効果】本発明のDNA、該DNAにコードされるポリペプチドは、歯周病に関する診断、治療、研究のために有用なものである。また、本発明のワクチン、診断薬は歯周病の予防、治療、診断に有用なものである。

【0076】

【配列表】

配列番号：1

配列の長さ：1272

配列の型：核酸

鎖の数：二本鎖

トポロジー：直鎖状

配列の種類：Genomic DNA

170	175	180	
AAA GTC GGC ATC AAC AAA ATA ACG GCA AAA TCG ATT GCT ATC GGA			585
Lys Val Gly Ile Asn Lys Ile Thr Ala Lys Ser Ile Ala Ile Gly			
185	190	195	
CAA GAT GGT TTA CGT TGT ATC GGA ACA AAA GAC ATT TTG GTA AGT			630
Gln Asp Gly Leu Arg Cys Ile Gly Thr Lys Asp Ile Leu Val Ser			
200	205	210	
GTG GAT TCT TCA GGG ACG CTG CAA TTA CAA ATG GCT CAG GCT AAT			675
Val Asp Ser Ser Gly Thr Leu Gln Leu Gln Met Ala Gln Ala Asn			
215	220	225	
TAT CGG AAT GAC AAC CGG ATC AGC GAA ATC CAA GCA ACC AAG ATT			720
Tyr Arg Asn Asp Asn Arg Ile Ser Glu Ile Gln Ala Thr Lys Ile			
230	235	240	
GCC AGA GAA TTG ATT GAA GAT TTG GGA ATT GCC AAG GAT GTC AAA			765
Ala Arg Glu Leu Ile Glu Asp Leu Gly Ile Ala Lys Asp Val Lys			
245	250	255	
TTG ACA CCG GCA ACT ACG TAT AAC TCG TTC CTG TGT GGT GCC AAT			810
Leu Thr Pro Ala Thr Thr Tyr Asn Ser Phe Leu Cys Gly Ala Asn			
260	265	270	
ACG AAA ACT GGC GAG CAG GGT AAG CCA ACG GTG GTA GAG ACT ATT			855
Thr Lys Thr Gly Glu Gln Gly Lys Pro Thr Val Val Glu Thr Ile			
275	280	285	
ATT CAG TTC CGC CAA GTC AAT GAC AAA ATG GAA AGT GTG AAT GCA			900
Ile Gln Phe Arg Gln Val Asn Asp Lys Met Glu Ser Val Asn Ala			
290	295	300	
GAT TCC GGT TTC GTT GCA GTC GCT GTT GAC AAC GAC GGA AAG ATC			945
Asp Ser Gly Phe Val Ala Val Ala Val Asp Asn Asp Gly Lys Ile			
305	310	315	
ACA CGT CTA ACC AGC TCC GTC AAA CCA ATT GTA GAT ACC CAA AAG			990
Thr Arg Leu Thr Ser Ser Val Lys Pro Ile Val Asp Thr Gln Lys			
320	325	330	
AGT ATT GAT ATG CAG AGC CTT GCT AAA AAG AGG GAG GTC AAA ATG			1035
Ser Ile Asp Met Gln Ser Leu Ala Lys Lys Arg Glu Val Lys Met			
335	340	345	
AAG GAG CTT TCT GTC GAA GAA CGA TTC GAA AGA AAG ATC AAT CGC			1080
Lys Glu Leu Ser Val Glu Glu Arg Phe Glu Arg Lys Ile Asn Arg			
350	355	360	
TTG ATA AAC GGA ACG ACA AAC AAC AGC AAG TTG ATG AAG ATA ACA			1125
Leu Ile Asn Gly Thr Thr Asn Asn Ser Lys Leu Met Lys Ile Thr			
365	370	375	
GAT GCC CCA AAG GTA ATG GTC GAA ACA CTC TCC GAT AAA ATC GGG			1170
Asp Ala Pro Lys Val Met Val Glu Thr Leu Ser Asp Lys Ile Gly			
380	385	390	
TAT GAC TTC TCT TCC AAC TAT GCC CAA CCG GTC CAG CAG CGT GAT			1215
Tyr Asp Phe Ser Ser Asn Tyr Ala Gln Pro Val Gln Gln Arg Asp			
395	400	405	
ATC GAA ATC AAA GTG GGC GAT TTT GTA AAA CGC TAC CAA TTG AGA			1260
Ile Glu Ile Lys Val Gly Asp Phe Val Lys Arg Tyr Gln Leu Arg			
410	415	420	
GTA GAT TTG TAA			1272

Val Asp Leu

鎖の数：一本鎖

トポロジー：直鎖状

配列の種類：タンパク質

【 0 0 7 7 】配列番号：2

配列の長さ：4 2 3

配列の型：アミノ酸

配列：

Met	Ala	Pro	Met	Gly	Ala	Val	Trp	Asp	Asp	Arg	Ser	Leu	Ala	Leu
1				5				10					15	
Ser	Ser	Lys	Met	Ala	Phe	Ala	Asn	Glu	Lys	Leu	Arg	Tyr	Leu	Phe
				20				25					30	
Trp	Ser	Thr	Cys	Leu	Ser	Leu	Arg	Val	His	Asp	Gly	His	Ser	Pro
				35				40					45	
Asp	Arg	Thr	Trp	Arg	Leu	Ala	Asn	Lys	Gly	Gly	Leu	Arg	Met	Ile
				50				55					60	
Phe	Gly	Tyr	Glu	Thr	Val	Ser	Tyr	Asp	Ser	Gly	Arg	Tyr	Gly	Ser
				65				70					75	
Glu	Phe	Trp	Lys	Gln	Trp	Lys	Lys	Gly	Lys	Ser	Phe	Ser	Asp	Ala
				80				85					90	
Phe	Ile	Glu	Ala	Ser	Trp	Ser	Leu	Phe	Arg	Asn	Gln	Thr	Pro	Val
				95				100					105	
Val	Cys	Ala	Cys	Gly	Asn	Thr	Lys	Glu	Glu	Val	Gln	Lys	Arg	Leu
				110				115					120	
Phe	Ser	Glu	Arg	Met	Phe	Tyr	Ser	Gly	Ala	Val	Ser	Ser	Asn	Trp
				125				130					135	
Tyr	Trp	Trp	Lys	Trp	Arg	Glu	Ala	Gln	Asn	His	Lys	Gly	Leu	Lys
				140				145					150	
Thr	Ala	Arg	Ala	Lys	Ala	Pro	Gln	Asn	Met	Asp	Val	Leu	Leu	Leu
				155				160					165	
Lys	Pro	Tyr	Ile	Ile	Asp	Asp	Asp	Leu	Met	Ser	Ala	Ile	Ala	Asn
				170				175					180	
Lys	Val	Gly	Ile	Asn	Lys	Ile	Thr	Ala	Lys	Ser	Ile	Ala	Ile	Gly
				185				190					195	
Gln	Asp	Gly	Leu	Arg	Cys	Ile	Gly	Thr	Lys	Asp	Ile	Leu	Val	Ser
				200				205					210	
Val	Asp	Ser	Ser	Gly	Thr	Leu	Gln	Leu	Gln	Met	Ala	Gln	Ala	Asn
				215				220					225	
Tyr	Arg	Asn	Asp	Asn	Arg	Ile	Ser	Glu	Ile	Gln	Ala	Thr	Lys	Ile
				230				235					240	
Ala	Arg	Glu	Leu	Ile	Glu	Asp	Leu	Gly	Ile	Ala	Lys	Asp	Val	Lys
				245				250					255	
Leu	Thr	Pro	Ala	Thr	Thr	Tyr	Asn	Ser	Phe	Leu	Cys	Gly	Ala	Asn
				260				265					270	
Thr	Lys	Thr	Gly	Glu	Gln	Gly	Lys	Pro	Thr	Val	Val	Glu	Thr	Ile
				275				280					285	
Ile	Gln	Phe	Arg	Gln	Val	Asn	Asp	Lys	Met	Glu	Ser	Val	Asn	Ala
				290				295					300	
Asp	Ser	Gly	Phe	Val	Ala	Val	Ala	Val	Asp	Asn	Asp	Gly	Lys	Ile
				305				310					315	
Thr	Arg	Leu	Thr	Ser	Ser	Val	Lys	Pro	Ile	Val	Asp	Thr	Gln	Lys
				320				325					330	

Ser Ile Asp Met Gln Ser Leu Ala Lys Lys Arg Glu Val Lys Met
 335 340 345
 Lys Glu Leu Ser Val Glu Glu Arg Phe Glu Arg Lys Ile Asn Arg
 350 355 360
 Leu Ile Asn Gly Thr Thr Asn Asn Ser Lys Leu Met Lys Ile Thr
 365 370 375
 Asp Ala Pro Lys Val Met Val Glu Thr Leu Ser Asp Lys Ile Gly
 380 385 390
 Tyr Asp Phe Ser Ser Asn Tyr Ala Gln Pro Val Gln Gln Arg Asp
 395 400 405
 Ile Glu Ile Lys Val Gly Asp Phe Val Lys Arg Tyr Gln Leu Arg
 410 415 420
 Val Asp Leu

【 0 0 7 8 】配列番号 : 3

配列の長さ : 6

配列の型 : アミノ酸

鎖の数 : 一本鎖

トポロジー : 直鎖状

配列の種類 : ペプチド

配列 :

Ser Pro Asp Arg Thr Trp

1 5

【 0 0 7 9 】配列番号 : 4

配列の長さ : 1 0

配列の型 : アミノ酸

鎖の数 : 一本鎖

配列 :

Asn Gly Thr Thr Asn Asn Ser Lys Leu Met Lys Ile Thr Asp Ala

1 5 10 15

トポロジー : 直鎖状

配列の種類 : ペプチド

配列 :

Tyr Ile Ile Asp Asp Asp Leu Met Ser Ala

1 5 10

【 0 0 8 0 】配列番号 : 5

配列の長さ : 1 5

配列の型 : アミノ酸

鎖の数 : 一本鎖

トポロジー : 直鎖状

配列の種類 : ペプチド

フロントページの続き

(51)Int. Cl.⁶

識別記号

F I

C 1 2 N 1/21

C 1 2 N 9/52

9/52

A 6 1 K 37/54

// (C 1 2 N 15/09

Z N A

C 1 2 R 1:01)

(C 1 2 N 1/21

C 1 2 R 1:19)

(C 1 2 N 9/52

C 1 2 R 1:19)